

## 村田製作所 (コード 6981)

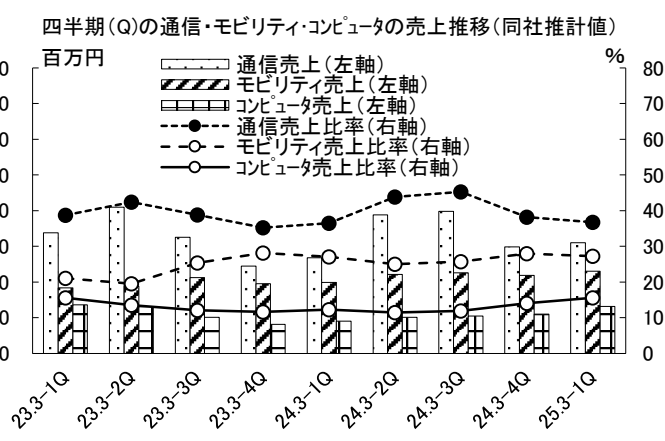
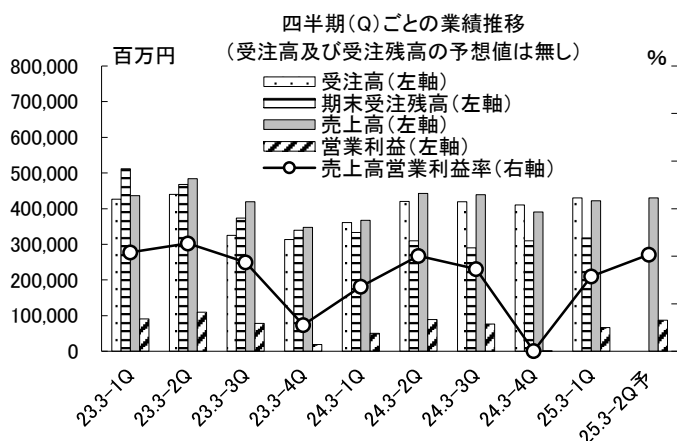
### ◆各決算期の第1四半期業績推移(連結) (24.3よりIFRS。23.3は遡及表示)

決算期	売上収益	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
23.3	436,657	90,751	39.8	—	32,790	▲36,017	▲91,114	425,407
24.3	367,694	50,111	26.5	—	59,374	▲75,682	▲49,688	422,966
25.3	421,707	66,375	35.3	—	58,493	▲61,565	▲103,724	537,644

### ◆通期業績推移(連結) (24.3よりIFRS。23.3は遡及表示。25.3予は会社側発表値)

決算期	売上収益	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
23.3	1,686,796	298,231	128.6	50.0	277,641	▲151,416	▲182,271	469,406
24.3	1,640,158	215,447	95.7	52.0	489,637	▲201,571	▲165,321	622,007
25.3予	1,700,000	300,000	124.4	54.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



**25年3月期の第1四半期業績概況**…25年3月期の第1四半期(24年4~6月)は、主に積層セラミックコンデンサ(MLCC)がコンピュータやモビリティ向けに、高周波モジュールがスマートフォン向けにそれぞれ好調に推移。前年同期比で売上収益は約15%増え、円安効果や操業度の回復なども加わり、営業利益は約33%増えた。

当期の業績は、売上収益4,217億700万円(前年同期比14.7%増)、営業利益663億7,500万円(同32.5%増)、税引前四半期利益835億6,600万円(同33.1%増)、親会社の所有者に帰属する四半期利益663億6,500万円(同32.5%増)となり、売上収益に対する営業利益率は15.7%(前年同期13.6%、直前四半期0.1%)に向上した。

事業セグメント別の売上収益は、コンポーネント2,515億9,600万円(同20.8%増)、デバイス・モジュール1,671億7,300万円(同6.6%増)などで、コンポーネントのうちコンデンサが2,013億1,300万円(同20.0%増)に、デバイス・モジュールのうち高周波・通信が993億2,600万円(同13.0%増)、エネルギー・パワーが426億2,800万円(同11.2%減)などとなった。コンデンサでは、MLCCがコンピュータやモビリティ向けで増加した。高周波・通信では、スマートフォン向けにおいて、コネクティブティモジュールや表面波フィルタが減少した一方、高周波モジュールや樹脂多層基板が増加。エネルギー・パワーでは、リチウムイオン二次電池がサーバー向けで増加したものの、電動二輪車向けやAV機器向けで減少した。この結果、用途別では、通信が1,549億300万円(同15.5%増)、モビリティが1,150億3,700万円(同15.5%増)、コンピュータが658億1,400万円(同45.6%増)、家電が409億8,600万円(同2.5%減)、産業・

その他が 449 億 6,700 万円 (同 3.8%減) となり、売上構成比率ではコンピュータ向けが 15.6% (前年同期 12.3%) へと大きく伸びたほか、通信向けが 36.7% (同 36.5%)、モビリティ向けも 27.3% (同 27.1%) に上昇した。

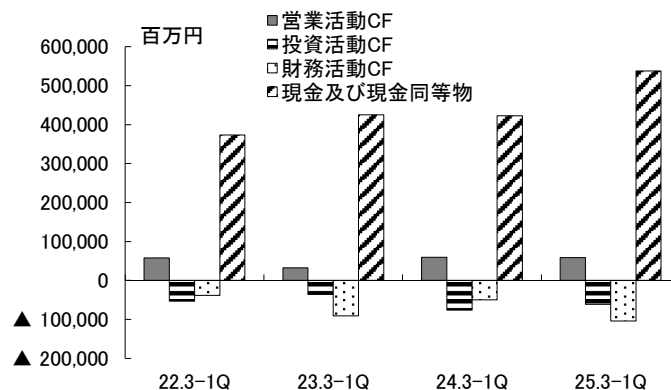
利益面では、同社推計で、合理化効果 (約 110 億円)、操業度益 (約 150 億円)、為替変動 (約 210 億円) などのプラス要因が、売値下げ (約 190 億円) などのマイナス要因を上回り、増益に。また、事業セグメント別の営業利益は、円安効果や操業度回復などからコンポーネントが 736 億 6,300 万円 (前年同期比 40.3%増) に拡大した一方、操業度低下によるリチウムイオン二次電池の収益性の悪化、表面波フィルタの需要回復の遅れなどからデバイス・モジュールは 61 億 2,400 万円の損失 (前年同期は 1 億 9,900 万円の損失) となった。

受注高は 4,298 億 5,500 万円 (同 19.1%増) に伸び、事業セグメント別ではコンポーネント 2,646 億 200 万円 (同 30.2%増)、デバイス・モジュール 1,625 億 300 万円 (同 4.7%増) など。コンポーネントのうちコンデンサが 2,132 億 2,600 万円 (同 29.8%増) に、デバイス・モジュールのうち高周波・通信が 936 億 4,800 万円 (同 0.5%増)、エナジー・パワーが 395 億 8,800 万円 (同 7.5%減) などとなった。また、期末の受注残高は 3,182 億 9,500 万円 (24 年 3 月期末比 2.6%増) で、事業セグメント別ではコンポーネント 1,838 億 5,600 万円 (同 7.6%増)、デバイス・モジュール 1,292 億 4,200 万円 (同 3.5%減) など。コンポーネントのうちコンデンサが 1,510 億 8,100 万円 (同 7.0%増) に、デバイス・モジュールのうち高周波・通信が 483 億 2,500 万円 (同 10.5%減)、エナジー・パワーが 588 億 7,100 万円 (同 4.9%減) などとなった。

キャッシュ・フロー (以下、CF) の状況について、当四半期末における現金及び現金同等物残高は 5,376 億 4,400 万円 (前年同期末比 27.1%増) となった。営業活動 CF は、四半期利益 662 億 7,700 万円 (前年同期比 32.7%増)、棚卸資産の減少額 108 億 3,000 万円 (前年同期は増加額 19 億 4,500 万円)、その他の負債の減少額 195 億 9,000 万円 (同増加額 54 億 9,000 万円) などにより、584 億 9,300 万円の収入 (前年同期比 1.5%減) になった。投資活動 CF は、有形固定資産の取得による支出 571 億 800 万円 (同 20.9%減) などにより、615 億 6,500 万円の支出 (同 18.7%減) に。財務活動 CF は、配当金の支払額 510 億 900 万円 (同 8.0%増)、自己株式の取得による支出 500 億 100 万円 (前年同期は 200 万円) などにより、1,037 億 2,400 万円の支出 (前年同期比 108.8%増) となった。

**25 年 3 月期の業績見通し**…25 年 3 月期の通期業績については、24 年 4 月 26 日の会社側発表値から変更されておらず、売上収益 1 兆 7,000 億円 (前期比 3.6%増)、営業利益 3,000 億円 (同 39.2%増)、税引前利益 3,130 億円 (同 30.7%増)、親会社の所有者に帰属する当期利益 2,350 億円 (同 30.0%増) の見通しで、1 株当たりの年間配当金は 54 円の予定となっている。

第1四半期(1Q)のキャッシュ・フロー推移



本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。